



# 平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月13日

上場会社名 神姫バス株式会社

上場取引所 大

コード番号 9083 URL <http://www.shinkibus.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上杉 雅彦

問合せ先責任者 (役職名) 企画部長 (氏名) 永井 勝浩

四半期報告書提出予定日 平成24年11月14日

配当支払開始予定日

TEL 079-223-1243  
平成24年12月13日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	19,936	0.8	611	△7.7	679	△7.4	337	△0.7
24年3月期第2四半期	19,780	△2.2	662	△7.0	733	△4.1	339	△32.3

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 326百万円 (0.7%) 24年3月期第2四半期 323百万円 (△15.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	11.18	—
24年3月期第2四半期	11.26	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第2四半期	46,481	31,584	67.9	1,046.91
24年3月期	46,461	31,419	67.4	1,038.60

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 31,567百万円 24年3月期 31,318百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
25年3月期	—	2.50	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	2.50	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,600	1.6	940	△4.2	1,080	△5.4	1,400	21.2	46.43

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 有  
④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	30,860,000 株	24年3月期	30,860,000 株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	707,153 株	24年3月期	705,432 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	30,153,716 株	24年3月期2Q	30,159,352 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10
(6) セグメント情報等 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災からの復興需要に支えられ、緩やかに回復しているものの、欧州債務危機による海外経済の減速や長引く円高、厳しい雇用情勢などにより、先行きが不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢のなかで、当社グループは、企業価値増大に向け、バス輸送を中心とした輸送サービスの向上、成長分野としての生活サービス事業の展開を通じて安定した収益の確保に注力してまいりました。以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比155百万円（0.8%）増の19,936百万円、営業利益は前年同期比51百万円（△7.7%）減の611百万円、経常利益は前年同期比54百万円（△7.4%）減の679百万円となりました。また、四半期純利益は、連結子会社元役員の不正行為による損失の計上がありましたものの、負ののれん発生益の計上や法人税率の引下げの影響等により前年同期比2百万円（△0.7%）減の337百万円となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。売上高、営業利益はセグメント間の内部売上高又は振替高控除前の金額であります。

なお、第2四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

#### ① 自動車運送

乗合バス部門は、一般路線では、平成24年3月に公営バスから路線を譲り受けたほか、需要の見込める三ノ宮を拠点とする中距離路線の開設等により増収となりました。また、高速バスは、高速道路料金休日上限千円施策が平成23年6月に終了したことによる反動増に加え、販売チャネルの強化に努めたこと等により堅調に推移いたしました。タクシー部門は、稼働率の低下により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比254百万円（3.0%）増の8,854百万円となりましたが、営業損益は人件費及び減価償却費の増加等により前年同期に比べ75百万円（△75.2%）悪化し、176百万円の営業損失となりました。

#### ② 車両物販・整備

車両物販部門は、設備機器及びタイヤ販売が減少しましたものの、車両部品の販売が好調に推移したことに加え、新車購入補助制度（エコカー補助金）が再導入されたことにより自動車販売台数が増加いたしました。また、整備部門は、バス搭載機器（ドライブレコーダー）の取付や中古バスの改造、車体塗装等が増加したことにより増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比184百万円（6.0%）増の3,248百万円、営業利益は42百万円（33.0%）増の172百万円となりました。

#### ③ 業務受託

車両運行管理部門は、新規顧客の獲得はありましたものの、大口顧客の契約更新が出来なかったこと等により売上高は前年同期並となりました。経営受託部門は、姫路市等から新たに公共施設の管理・運営を受託したことにより増収となりました。介護部門は、サービス付き高齢者向け住宅「青山の郷」及び併設するデイサービス訪問介護施設「ケアサービス神姫あおやま」を開設したことにより増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比143百万円（9.8%）増の1,605百万円となりましたが、営業利益は介護部門におきまして人件費、減価償却費等が増加したこと等により前年同期比56百万円（△38.9%）減の89百万円となりました。

#### ④ 不動産

販売部門は、分譲地販売区画数が減少したことにより、建設部門は、建築請負工事が減少したことにより減収となりました。賃貸部門は、既存商業施設の賃貸料減額の影響がありましたものの、平成23年12月に取得した「常温一括加古川センター」（物流施設）などが収入の確保に寄与し、増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比96百万円（△5.6%）減の1,626百万円、営業利益は前年同期比12百万円（△2.1%）減の582百万円となりました。

#### ⑤ レジャーサービス

飲食部門は、サービスエリア事業は前年同期並で推移いたしました。FC事業において新たな店舗を取得したことにより増収となりました。レンタル部門・TSUTAYAは、太子店の売上が引き続き伸びましたものの、姫路広峰店において映像レンタル及び、CD・DVDの販売が減少したこと等により前年同期並となりました。また、遊技場部門は、1円パチンコの増台や接客サービスの向上等の増客施策を実施してまいりましたが、遊技者人口の減少や近隣店との競合により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比145百万円（△3.5%）減の4,037百万円となりましたが、営業利益は遊技場部門における利益率の向上やレンタル部門における販管費の減少等により前年同期比22百万円（23.5%）増の120百万円となりました。

#### ⑥旅行貸切

旅行部門は、国内募集型企画旅行の主力商品である「バスの旅」が好調に推移したことに加え、震災の影響により団体旅行の延期・キャンセルが発生した前年同期に比べ増収となりました。貸切バス部門は、東京ディズニーリゾートツアーが震災の影響により長期連休していた前年同期に比べ増収となりましたものの、販売単価が下落したこと等により前年同期並となりました。以上の結果、売上高は前年同期比22百万円(1.5%)増の1,560百万円、営業損益は前年同期に比べ37百万円(19.9%)改善しましたものの、151百万円の営業損失となりました。

#### ⑦ その他

清掃・警備部門は、車両清掃の増加等により堅調に推移いたしました。化粧品販売部門は、積極的な店舗展開を行ったことに加え、新規顧客獲得を目的としたイベントの実施等により増収となりました。広告部門は、ラッピングバス広告やバスの車内広告等において新規顧客を獲得いたしました。以上の結果、売上高は前年同期比34百万円(5.3%)増の683百万円となりましたが、営業損益は、化粧品部門の店舗開設費用や農業部門の減価償却費の増加等により前年同期に比べ14百万円悪化し、8百万円の営業損失となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期末の総資産は、前連結会計年度末に比べ19百万円増加し、46,481百万円となりました。増減の主なものは、現金及び預金の増加1,292百万円、未収運賃の減少193百万円、自動車運送事業における補助金未収の減少912百万円等であります。

負債は、前連結会計年度末に比べ145百万円減少し、14,896百万円となりました。増減の主なものは、賞与引当金の増加273百万円、定期券等の前受金の増加258百万円、未払金の減少493百万円、借入金の返済による減少275百万円であります。

純資産は、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加261百万円、少数株主持分の減少83百万円等により、前連結会計年度末に比べ165百万円増加の31,584百万円となり、自己資本比率は67.9%となりました。

#### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は前連結会計年度末に比べ1,122百万円増加し、6,066百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前四半期純利益708百万円に非資金項目である減価償却費等を調整した結果、前年同期比631百万円(28.5%)増の2,843百万円となりました。これは主に、法人税等の支払額が減少したこと等によるものです。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、前年同期比144百万円(△11.5%)減の1,106百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が減少したこと等によるものです。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、前年同期比125百万円(23.3%)増の665百万円となりました。これは主に、借入金の純返済額が増加したこと等によるものです。

### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の連結業績予想につきましては、不動産業の販売部門におきまして、分譲地の販売が当初の予定を下回っていることに加え、レジャーサービス業の遊技場部門が、近隣店との競合により厳しい状況が続いていること等を踏まえ、平成24年5月15日に公表いたしました売上高、営業利益、経常利益をそれぞれ修正しております。

更に、当期純利益につきましても、負ののれん発生益の計上がありましたものの、連結子会社元役員の上不正行為による損失の計上等により下方修正しております。

平成25年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想（A）	41,200	1,000	1,100	1,440
今回修正予想（B）	40,600	940	1,080	1,400
増減額（B－A）	△600	△60	△20	△40
増減率（％）	△1.5	△6.0	△1.8	△2.8
（ご参考）前期実績 （平成24年3月期）	39,964	981	1,142	1,155

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（減価償却方法の変更）

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

この変更に伴う損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,619	6,911
受取手形及び売掛金	1,855	1,775
未収運賃	770	576
有価証券	120	80
商品及び製品	395	414
仕掛品	15	94
分譲土地建物	1,276	1,204
原材料及び貯蔵品	95	73
その他	1,730	837
貸倒引当金	△12	△12
流動資産合計	11,864	11,957
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	23,549	23,687
減価償却累計額	△15,345	△15,565
建物及び構築物（純額）	8,203	8,121
機械装置及び工具器具備品	2,608	2,669
減価償却累計額	△2,179	△2,175
機械装置及び工具器具備品（純額）	429	493
車両運搬具	12,942	12,548
減価償却累計額	△10,731	△10,548
車両運搬具（純額）	2,211	2,000
土地	16,204	16,235
リース資産	3,231	3,562
減価償却累計額	△1,319	△1,627
リース資産（純額）	1,911	1,934
建設仮勘定	54	93
有形固定資産合計	29,014	28,878
無形固定資産		
のれん	50	43
その他	212	306
無形固定資産合計	262	350
投資その他の資産		
投資有価証券	3,085	2,961
その他	2,521	2,731
貸倒引当金	△286	△397
投資その他の資産合計	5,320	5,295
固定資産合計	34,596	34,524
資産合計	46,461	46,481

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,069	1,104
短期借入金	309	309
1年内返済予定の長期借入金	982	1,080
リース債務	618	726
未払金	3,114	2,620
未払法人税等	431	422
事故補償引当金	7	3
賞与引当金	857	1,131
過年度雑収計上旅行券引当金	14	14
その他	1,672	2,026
流動負債合計	9,075	9,439
固定負債		
長期借入金	1,286	912
リース債務	1,385	1,297
退職給付引当金	617	585
役員退職慰労引当金	125	103
負ののれん	4	3
その他	2,547	2,554
固定負債合計	5,966	5,456
負債合計	15,041	14,896
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,235	2,235
利益剰余金	25,578	25,840
自己株式	△418	△419
株主資本合計	30,535	30,796
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	782	771
その他の包括利益累計額合計	782	771
少数株主持分	101	17
純資産合計	31,419	31,584
負債純資産合計	46,461	46,481



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
売上高	19,780	19,936
売上原価	14,700	14,830
売上総利益	5,079	5,106
販売費及び一般管理費	4,416	4,494
営業利益	662	611
営業外収益		
受取利息	10	10
受取配当金	24	23
持分法による投資利益	10	21
その他	67	53
営業外収益合計	113	108
営業外費用		
支払利息	12	13
固定資産除却損	10	11
その他	20	15
営業外費用合計	42	40
経常利益	733	679
特別利益		
固定資産売却益	—	19
運行補助金	30	37
車両等購入補助金	—	50
負ののれん発生益	—	52
特別利益合計	30	159
特別損失		
固定資産圧縮損	—	33
貸倒引当金繰入額	18	97
特別損失合計	18	130
税金等調整前四半期純利益	746	708
法人税等	404	371
少数株主損益調整前四半期純利益	341	337
少数株主利益	2	0
四半期純利益	339	337

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	341	337
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△17	△10
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△0
その他の包括利益合計	△17	△11
四半期包括利益	323	326
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	322	325
少数株主に係る四半期包括利益	1	0

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	746	708
減価償却費	1,040	1,227
賞与引当金の増減額 (△は減少)	85	273
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△79	△95
受取利息及び受取配当金	△35	△34
支払利息	12	13
持分法による投資損益 (△は益)	△10	△21
有形固定資産除却損	30	31
売上債権の増減額 (△は増加)	△7	273
たな卸資産の増減額 (△は増加)	185	△11
未払金の増減額 (△は減少)	△78	△336
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△187	△93
その他	1,360	1,271
小計	3,061	3,207
利息及び配当金の受取額	35	34
利息の支払額	△12	△13
法人税等の支払額	△873	△384
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,211	2,843
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△235	△9
有形固定資産の取得による支出	△1,140	△971
その他	125	△126
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,251	△1,106
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	—	89
短期借入金の返済による支出	—	△89
長期借入れによる収入	50	—
長期借入金の返済による支出	△253	△275
配当金の支払額	△75	△75
少数株主への配当金の支払額	△0	△0
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△262	△333
その他	2	19
財務活動によるキャッシュ・フロー	△539	△665
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	421	1,072
現金及び現金同等物の期首残高	5,929	4,944
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	—	50
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,351	6,066

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

[セグメント情報]

I 前第2四半期連結累計期間（自平成23年4月1日至平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物 販・整備	業務受託	不動産	レジャーサ ービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	8,560	2,198	1,439	1,508	4,182	1,505	19,395	385	19,780
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	39	865	22	215	—	32	1,175	263	1,438
計	8,600	3,063	1,462	1,723	4,182	1,538	20,570	648	21,219
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	△100	129	146	594	97	△189	678	5	683

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	678
「その他」の区分の利益	5
セグメント間取引消去	△20
四半期連結損益計算書の営業利益	662

II 当第2四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物 販・整備	業務受託	不動産	レジャーサ ービス	旅行貸切	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	8,813	2,185	1,587	1,354	4,037	1,524	19,503	432	19,936
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	41	1,062	18	272	—	35	1,430	251	1,681
計	8,854	3,248	1,605	1,626	4,037	1,560	20,934	683	21,617
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	△176	172	89	582	120	△151	636	△8	627

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	636
「その他」の区分の利益	△8
セグメント間取引消去	△15
四半期連結損益計算書の営業利益	611

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
(重要な負ののれん発生益)

「車両物販・整備」セグメントにおいて、連結子会社である神姫産業株式会社の株式を追加取得したことにより負ののれん発生益を計上しております。

当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第2四半期連結累計期間において52百万円です。

なお、この負ののれん発生益は特定の報告セグメントに係るものではないため、全社の利益として認識しております。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第2四半期連結会計期間において、「レジャーサービス」に含まれていた旅行業、及び「自動車運送」に含まれていた一般貸切（貸切バス事業）を中間持株会社によって経営管理する体制に移行する事業再編を行っております。この事業再編に伴い、当第2四半期連結会計期間より、新たに「旅行貸切」を報告セグメントの区分に追加しております。なお、当第2四半期連結会計期間に行ったセグメント区分の変更は、当連結会計年度の期首に行われたと仮定してセグメント情報等を作成しております。

以上の変更に伴い、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、事業再編後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

なお、変更後の各報告セグメントの主な事業内容は次の通りです。

自動車運送……………一般乗合・乗用・特定旅客運送、郵便物の運送、一般乗合受託、索道業  
 車両物販・整備……………自動車部品・タイヤの販売、自動車の修理、保険代理  
 業務受託……………自動車の運転・保守管理、経営受託、介護  
 不動産……………土地造成、建物の建築、土地・建物の売買、賃貸、仲介及び管理  
 レジャーサービス……………高速道売店等における物販を含む飲食業、遊技場、レンタル業  
 旅行貸切……………旅行業、一般貸切（貸切バス事業）